

【表紙】

| | |
|------------|------------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成27年2月12日 |
| 【四半期会計期間】 | 第12期第3四半期（自平成26年10月1日至平成26年12月31日） |
| 【会社名】 | フランスベッドホールディングス株式会社 |
| 【英訳名】 | FRANCE BED HOLDINGS CO.,LTD. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 池田 茂 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都新宿区西新宿六丁目22番1号 |
| 【電話番号】 | 03 - 6741 - 5501（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役（経理グループ担当） 島田 勉 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都新宿区西新宿六丁目22番1号 |
| 【電話番号】 | 03 - 6741 - 5501（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役（経理グループ担当） 島田 勉 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第11期 第3四半期 連結累計期間 | 第12期 第3四半期 連結累計期間 | 第11期 |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日 | 自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日 | 自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | 39,202 | 37,733 | 54,891 |
| 経常利益 (百万円) | 1,910 | 1,297 | 2,784 |
| 四半期(当期)純利益 (百万円) | 1,051 | 658 | 1,397 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 1,131 | 818 | 1,356 |
| 純資産額 (百万円) | 35,516 | 34,669 | 35,522 |
| 総資産額 (百万円) | 57,901 | 56,284 | 59,443 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円) | 4.83 | 3.07 | 6.44 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円) | - | - | - |
| 自己資本比率 (%) | 61.33 | 61.59 | 59.75 |

| 回次 | 第11期 第3四半期 連結会計期間 | 第12期 第3四半期 連結会計期間 |
|-------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 会計期間 | 自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日 | 自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 (円) | 1.96 | 1.33 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（以下「当期」という。）におけるわが国経済は、政府や日本銀行による経済政策や金融緩和政策により、企業業績や雇用情勢には改善がみられましたが、消費税増税後の個人消費の低迷が続くなど、消費者マインドには弱さが見られ、円安の進行による原材料価格の高騰等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経済環境のもと、当社グループでは、今後も増加していく介護ニーズを取り込んでいくため、営業拠点数の増加や、他社に真似のできない新商品を投入することなどによって、メディカルサービス事業の更なる成長を目指すとともに、インテリア健康事業においても、これまでに引き続き、自らのライフスタイルに対してこだわりを持っている消費者のニーズに応えるべく、高機能・高付加価値商品の販売に注力していくことで、収益性の向上に取り組んでまいりました。

また、主に元気な高齢者の方々を対象とした「リハテック」ブランド商品につきましては、新商品の開発や、新規販売チャネルの開拓を進めるとともに、自社によるモデルショップ運営の展開を開始することにより、ビジネスモデルの確立を図り、市場への浸透と売上の拡大に努めてまいりました。

このような状況のもと、当社グループの当期における業績は、主力のメディカルサービス事業の中の福祉用具貸与事業は堅調に推移したものの、同事業の中の病院・施設向け販売やインテリア健康事業は、消費税増税後の反動減の影響などにより苦戦を強いられ、グループ全体の売上高は37,733百万円（前年同四半期比3.7%減）となりました。また、売上高の減少に加え、人件費に含まれる退職給付費用や広告宣伝費など、販売費及び一般管理費が増加したことなどにより、営業利益は1,296百万円（前年同四半期比32.4%減）、経常利益は1,297百万円（前年同四半期比32.1%減）、四半期純利益は658百万円（前年同四半期比37.3%減）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

メディカルサービス事業

メディカルサービス事業においては、介護保険の給付額が増加している福祉用具貸与事業に対して、営業拠点3箇所（京都府京都市、東京都大田区、広島県広島市）の新設や新商品の投入などによって、レンタルを中心とした売上高の拡大を図りました。

ベッドからの転倒事故を軽減するとともに、高さ調節により介護負担の軽減を図る新商品「超低床リクライニングベッド FLB-03J フロアーベッド」につきましては、テレビコマーシャルの放映等によって商品の認知度を高めることで、新たな顧客や代理店の獲得を図りました。また、背上げ時の腹部の圧迫やずり落ちを軽減することで、利用者の方はもとより介護者の負担を軽減する腹部圧迫軽減マットレス「FK-95」などの拡販に注力し、顧客数の拡大に努めてまいりました。

さらに、「リハテック」ブランド商品につきましては、自転車感覚で気軽に乗れるハンドル型電動車いす「スマートパル S637」の販売を開始し、各地で体験試乗会を実施することにより、新たな売上の獲得を図るとともに、介護商品を扱う直営店を「リハテックショップ」に改装し、モデルショップとして展開することにより、認知度の向上やブランドイメージの定着を図ってまいりました。

病院・福祉施設等に対する販売に関しましては、ベッド上の利用者の起き上がりや離床などの動きを感知し、ナースステーションなどに通知することにより、看護師や介護職員などの負担軽減を図る「見守りケアシステム M-1」の継続的な販売促進や、利用者の方がベッドから転落した際に怪我をするリスクと介護者の負担を軽減する新商品「超低床フロアーベッド FLB-03」などの販売に取り組んでまいりましたが、平成26年度の診療報酬改定の影響などにより受注案件が減少したことや、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減などにより、売上高が減少いたしました。

以上の結果、メディカルサービス事業の売上高は20,292百万円（前年同四半期比1.7%減）、営業利益は1,070百万円（前年同四半期比16.7%減）となりました。

インテリア健康事業

インテリア健康事業においては、消費者の高級志向の高まりなどを背景に、良質な睡眠や、自らのライフスタイルにこだわりを持っている消費者のニーズに応えるべく、これまでに引き続き、高性能・高付加価値商品を市場に投入するとともに、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減に対応するため、今までにない独創性の高い新商品を市場に投入し、販売に注力することで、収益力の向上に努めてまいりました。

マットレスのクッション部に東洋紡と共同開発した新素材「プレスエアーエクストラ®」を採用し、スプリング部の高密度連続スプリングと組み合わせることにより、理想的な寝姿勢で、心地よい眠りを提供する「新リハテックマットレス RH-BAE」や関連商材を市場に投入し、テレビコマーシャルの放映等によって商品の認知度を高めるとともに、本年6月に当社の連結子会社のフランスベッド株式会社（以下「フランスベッド」という。）が創立65周年を迎えることから、記念商品の販売や販促企画を実施することで、新たな需要の喚起に取り組んでまいりました。

また、2020年に東京オリンピックが開催されることを機に、今後、シティホテルを中心とした新たな需要が見込まれることから、当社グループのシェア拡大を図るべく、本年10月にフランスベッド内に全国のホテル営業部門を統括する本部組織を新たに設置いたしました。

「リハテック」ブランド商品については、従前から取引のある家具専門店とともに、新たな販売チャネルに対しても、実際に試乗や体験の出来る試乗会イベントや、高齢者向けの商品の売り場である「リハテックコーナー」の設置を働きかけてまいりました。

以上のように、消費税増税後の反動減による影響を抑えるために新たな取り組みを行ってまいりましたが、消費税増税後の家具小売市場における消費低迷の影響が想定以上に長期化していることなどにより、インテリア健康事業の売上高は14,810百万円（前年同四半期比5.0%減）、営業利益は187百万円（前年同四半期比69.3%減）となりました。

その他

戸別訪問販売事業においては、販売員の活性化を図るための施策を実行するとともに、新規取引先の開拓や「リハテック」ブランド商品の拡販に積極的に取り組むことにより、売上高の確保に努めてまいりました。

また、日用品雑貨販売事業においては、前期に引き続き、業績が低迷する店舗の撤退や、取扱商品の見直しなどの事業構造の改革を進めてまいりました。

以上の結果、その他の売上高は2,631百万円（前年同四半期比10.6%減）、営業利益は13百万円（前年同四半期は営業損失13百万円）となりました。

(2) 財政状態の状況

（資産）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末（以下「前期末」という。）と比較して3,159百万円減少し56,284百万円となりました。流動資産は前期末と比較して2,902百万円減少し30,086百万円となりました。主な要因は、たな卸資産1,116百万円などの増加に対し、現金及び預金1,762百万円、受取手形及び売掛金（電子記録債権を含む）2,236百万円などの減少によるものであります。固定資産は前期末と比較して255百万円減少し26,131百万円となりました。主な要因は、譲渡性預金600百万円の増加に対し、退職給付に関する会計基準等の改正などにより、退職給付に係る資産932百万円が減少したことなどによるものであります。

（負債）

負債は、前期末と比較して2,306百万円減少し21,614百万円となりました。主な要因は、社債（1年内償還含む）800百万円の増加に対し、長期借入金800百万円、支払手形及び買掛金553百万円、ファクタリング未払金479百万円、未払費用260百万円、長期未払金732百万円などが減少したことによるものであります。

（純資産）

純資産は、前期末と比較して852百万円減少し34,669百万円となりました。主な要因は、増加については、四半期純利益658百万円などであり、減少については、剰余金の配当1,070百万円、退職給付に関する会計基準等の改正による退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う利益剰余金の取崩し599百万円などによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、前期末の59.7%から61.5%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、152百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資金需要ならびに財務政策について

当社グループにおける主な資金需要は、当社及び子会社が事業活動を行っていく上で必要な運転資金及び設備投資資金であります。

これらの資金需要に対しては、主として営業活動からのキャッシュ・フローと金融機関からの借入及び社債（私募債）により調達しており、グループとして最適な資金調達を実現するために、当社が中心となり調達を行っております。

また、当社グループではCMS（キャッシュ・マネジメント・サービス）を導入しており、グループ各社における余剰資金を当社に集中し、一元管理を行うことで金融費用の削減を図っております。なお、当第3四半期連結会計期間末における当社グループの有利子負債残高は9,380百万円となりました。内訳としては、短期及び長期借入金2,750百万円（短期借入金1,550百万円、長期借入金1,200百万円）、社債4,350百万円（1年内償還含む）、リース債務2,280百万円であります。

一方、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は8,862百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,162百万円減少しております。将来発生し得る資金需要については、営業活動によって得られるキャッシュ・フロー及び手元資金により、対応可能な状況であると認識しております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 900,000,000 |
| 計 | 900,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年12月31日) | 提出日現在発行数(株) (平成27年2月12日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|---|-----------------------------|------------------------------------|-----------------|
| 普通株式 | 224,487,500 | 224,487,500 | 東京証券取引所 市場第一部 | 単元株式数 1,000株 |
| 計 | 224,487,500 | 224,487,500 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (千株) | 発行済株式 総数残高 (千株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|----------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成26年10月1日～ 平成26年12月31日 | - | 224,487 | - | 3,000 | - | 750 |

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-----------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 10,315,000 | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 213,938,000 | 213,938 | - |
| 単元未満株式 | 普通株式 234,500 | - | - |
| 発行済株式総数 | 224,487,500 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 213,938 | - |

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が5,000株(議決権5個)含まれております。

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%) |
|---------------------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|--------------------------------|
| (自己保有株式) フランスベッドホールディングス株式会社 | 東京都新宿区西新宿 六丁目22番1号 | 10,315,000 | - | 10,315,000 | 4.59 |
| 計 | - | 10,315,000 | - | 10,315,000 | 4.59 |

(注) 当第3四半期会計期間末の自己株式数は10,316,000株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 8,125 | 6,363 |
| 受取手形及び売掛金 | 11,857 | 3 9,443 |
| 電子記録債権 | 493 | 3 670 |
| 有価証券 | 2,498 | 2,498 |
| 商品及び製品 | 5,335 | 6,064 |
| 仕掛品 | 465 | 499 |
| 原材料及び貯蔵品 | 1,859 | 2,213 |
| その他 | 2,362 | 2,340 |
| 貸倒引当金 | 10 | 8 |
| 流動資産合計 | 32,988 | 30,086 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 土地 | 6,481 | 6,474 |
| その他(純額) | 9,763 | 9,920 |
| 有形固定資産合計 | 16,244 | 16,395 |
| 無形固定資産 | 1,055 | 943 |
| 投資その他の資産 | 1 9,087 | 1 8,792 |
| 固定資産合計 | 26,387 | 26,131 |
| 繰延資産 | 66 | 65 |
| 資産合計 | 59,443 | 56,284 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 4,237 | 3 3,683 |
| ファクタリング未払金 | 2,392 | 1,913 |
| 短期借入金 | 1,550 | 1,550 |
| 1年内償還予定の社債 | - | 400 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 2,000 | - |
| 未払法人税等 | 208 | 47 |
| 賞与引当金 | 1,261 | 623 |
| その他の引当金 | 103 | 50 |
| その他 | 4,785 | 3 5,009 |
| 流動負債合計 | 16,539 | 13,278 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 3,550 | 3,950 |
| 長期借入金 | - | 1,200 |
| 引当金 | 521 | 516 |
| 退職給付に係る負債 | 646 | 665 |
| 資産除去債務 | 25 | 25 |
| その他 | 2,638 | 1,978 |
| 固定負債合計 | 7,381 | 8,335 |
| 負債合計 | 23,921 | 21,614 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,000 | 3,000 |
| 資本剰余金 | 1,867 | 1,867 |
| 利益剰余金 | 32,853 | 31,841 |
| 自己株式 | 2,083 | 2,083 |
| 株主資本合計 | 35,638 | 34,625 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 104 | 227 |
| 繰延ヘッジ損益 | 2 | 42 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 218 | 226 |
| その他の包括利益累計額合計 | 115 | 43 |
| 純資産合計 | 35,522 | 34,669 |
| 負債純資産合計 | 59,443 | 56,284 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 39,202 | 37,733 |
| 売上原価 | 21,073 | 19,770 |
| 売上総利益 | 18,128 | 17,963 |
| 販売費及び一般管理費 | 16,209 | 16,666 |
| 営業利益 | 1,919 | 1,296 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 7 | 4 |
| 受取配当金 | 19 | 20 |
| その他 | 101 | 111 |
| 営業外収益合計 | 127 | 137 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 64 | 60 |
| 売上割引 | 25 | 27 |
| その他 | 46 | 48 |
| 営業外費用合計 | 135 | 136 |
| 経常利益 | 1,910 | 1,297 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 0 | 17 |
| 特別利益合計 | 0 | 17 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 25 | 12 |
| 厚生年金基金解散損失引当金繰入額 | - | 12 |
| 特別損失合計 | 25 | 24 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,885 | 1,290 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 123 | 104 |
| 法人税等調整額 | 711 | 527 |
| 法人税等合計 | 834 | 631 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 1,051 | 658 |
| 四半期純利益 | 1,051 | 658 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 1,051 | 658 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 61 | 122 |
| 繰延ヘッジ損益 | 18 | 44 |
| 退職給付に係る調整額 | - | 7 |
| その他の包括利益合計 | 79 | 159 |
| 四半期包括利益 | 1,131 | 818 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,131 | 818 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | - | - |

【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る資産が854百万円減少、退職給付に係る負債が43百万円増加し、利益剰余金が599百万円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|----------|-------------------------|-------------------------------|
| 投資その他の資産 | 132百万円 | 130百万円 |

2 偶発債務

(1) 下記の会社等の借入金に対し、債務保証を行っております。

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------------|
| (株)翼 | 168百万円 | 148百万円 |
| 従業員 | 29百万円 | 24百万円 |
| 計 | 197百万円 | 173百万円 |

(2) 下記の会社の前受業務保証金供託委託契約に対し、下記の債務が発生する可能性があります。

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|------------|-------------------------|-------------------------------|
| (株)エフピー友の会 | 411百万円 | 423百万円 |

3 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| (流動資産)受取手形 | - 百万円 | 104百万円 |
| 電子記録債権 | - 百万円 | 9百万円 |
| (流動負債)支払手形 | - 百万円 | 361百万円 |
| その他(設備関係支払手形) | - 百万円 | 0百万円 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) |
|-------|--|--|
| 減価償却費 | 2,708百万円 | 2,721百万円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり 配当額 | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|--------|--------------|------------|------------|-------|
| 平成25年6月26日 定時株主総会 | 普通株式 | 491百万円 | 2.25円 | 平成25年3月31日 | 平成25年6月27日 | 利益剰余金 |
| 平成25年10月31日 取締役会 | 普通株式 | 491百万円 | 2.25円 | 平成25年9月30日 | 平成25年12月6日 | 利益剰余金 |

2. 株主資本の著しい変動

当社は、平成25年10月31日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき自己株式を取得することを決議し、平成25年11月1日に普通株式4,200,000株を取得いたしました。この結果、当第3四半期連結会計期間において、自己株式が852百万円増加しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり 配当額 | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|--------|--------------|------------|------------|-------|
| 平成26年6月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 588百万円 | 2.75円 | 平成26年3月31日 | 平成26年6月26日 | 利益剰余金 |
| 平成26年10月31日 取締役会 | 普通株式 | 481百万円 | 2.25円 | 平成26年9月30日 | 平成26年12月5日 | 利益剰余金 |

(注)平成26年6月25日定時株主総会決議における1株当たり配当額2円75銭には、創立10周年記念配当50銭が含まれております。

2. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 |
|-------------------|---------------|-------------|--------|-------------|--------|-------------|-------------------------------|
| | メディカル サービス | インテリア 健康 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 20,652 | 15,604 | 36,257 | 2,945 | 39,202 | - | 39,202 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 4 | 440 | 445 | 94 | 539 | 539 | - |
| 計 | 20,656 | 16,045 | 36,702 | 3,039 | 39,741 | 539 | 39,202 |
| セグメント利益又は損失() | 1,286 | 613 | 1,899 | 13 | 1,885 | 33 | 1,919 |

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 |
|-------------------|---------------|-------------|--------|-------------|--------|-------------|-------------------------------|
| | メディカル サービス | インテリア 健康 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 20,292 | 14,810 | 35,102 | 2,631 | 37,733 | - | 37,733 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 3 | 507 | 511 | 103 | 615 | 615 | - |
| 計 | 20,296 | 15,317 | 35,614 | 2,735 | 38,349 | 615 | 37,733 |
| セグメント利益 | 1,070 | 187 | 1,258 | 13 | 1,271 | 25 | 1,296 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、戸別訪問販売、日用品雑貨販売、展示会場設営及び不動産賃貸等の事業を含んでおります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

セグメント利益

(単位:百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 | 当第3四半期連結累計期間 |
|------------|--------------|--------------|
| セグメント間取引消去 | 564 | 585 |
| 全社費用 | 531 | 560 |
| 合計 | 33 | 25 |

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) |
|----------------------|--|--|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 4円83銭 | 3円07銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(百万円) | 1,051 | 658 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(百万円) | 1,051 | 658 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 217,444 | 214,172 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成26年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (1) 配当金の総額.....481百万円
- (2) 1株当たりの金額.....2円25銭
- (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成26年12月5日

(注) 平成26年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月9日

フランスベッドホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 國井泰成 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 藤本貴子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているフランスベッドホールディングス株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、フランスベッドホールディングス株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成26年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成26年2月3日付で無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成26年6月25日付で無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。